

# ACE

Act and Communicate in English

第13号

特集

授業準備、どうしていますか？

子どもたちの姿を具体的にイメージした授業準備

ALTとのチームティーチングの準備

関口友子

石川雄一郎

Tips for Activities!

「言えた!」が増える外国語授業  
一言語活動を支える3つの活動—

手嶋浩之

小学校英語 Q&A

効果的な語彙指導

増淵真紀子

世界の風景

タキーレ島 (ペルー) ERIKO

# 子どもたちの姿を具体的にイメージした授業準備

外国語の授業準備では、まず何を決め、どのような観点で必要なものを考えるとよいのでしょうか。日頃の授業準備で大切にしていることや気をつけていることを、関口友子先生にご紹介いただきます。



関口友子(せきぐち・ともこ)

東京都江東区立枝川小学校主幹教諭。学級担任、英語専科教員として、外国語指導の研究に取り組んできた。東京都の現職教員大学院派遣研修で横浜国立大学教育学研究科へ進学し、2020年3月に同科を修了。子どもたちの主体性を育成する外国語活動・外国語科の授業を目指して、日々実践に取り組んでいる。

## 1. はじめに

私は、外国語活動・外国語科の授業準備は、山登りの準備と似ていると考えています。登る山を決めて、ルートを決め、入念に持っていく物の準備をする。このような準備をすることで、安心して山登りを楽しむことができます。授業準備も同じです。ゴールを決め、ゴールまでのステップ

を考え、教材を準備する。このように授業準備をすることで、子どもたちも教師も、外国語活動・外国語科の授業を楽しむことができます。本稿では、話すこと [やり取り] の指導を例に、私が日頃の授業準備で気をつけているポイントをご紹介します。

## 2. ゴールを決める：子どもの発話を具体的に考える

山登りをする際、まずはどの山のどの地点をゴールとするのかを決めます。外国語活動・外国語科の授業でも、ゴールが決まっていないと授業はできません。

では、外国語活動・外国語科の授業のゴールはどのように決めればよいのでしょうか。学習指導要領に書かれている目標を達成できるように、授業を考えていくことが大切です。その際、私は、目標を達成したときの子どもたちの英語での発話を考えるようにしています。

例えば、教科書 *CROWN Jr. 5* の Lesson 1 My name is Jun. では、「自分のことをもっと知ってもらうために、名前や誕生日など、自分のことを伝え合う」ことがめあてとして示されています。教科書巻末の児童の振り返りのページにも、「名前や誕生日など、自分のことを伝え合うことができた」と書かれています。このめあてを読んで、すぐに授業の内容を考えるのではなく、私は、このめあてを達成できたときに、子どもたちに英語でどのようなことを話してほしいのかを具体的に考えています。この Lesson の場合、ゴールとしては次のようなやり取りを子どもたちにはしてほしいと考えます。

A&B : Hello!

A : When is your birthday?

B : My birthday is August 1st.

A : Oh, August 1st. (①)

B : Yes! Do you like summer? (②)

A : Yes, I do.

B : Nice! When is your birthday?

A : My birthday is February 2nd.

B : Oh, February 2nd. (①)

A : Yes! Do you like winter? (②)

B : No, I don't.

A : OK.

A&B : Thank you.

新しい表現だけではなく、既習の表現も組み合わせることで、小学生でも英語でまとまりのあるやり取りができます。今回は、誕生日だけではなく、相手の誕生日を聞いて繰り返すこと (①)、自分の誕生月の季節が好きかを尋ねること (②) という2つの指導も必要であることがわかります。このように、実際のゴールの発話を具体的に考えることで、指導すべき内容の全体像が明確になります。

### 3. ゴールに向かうためのステップを考える

ゴールと指導内容が明確になったら、次は、どのようにしたらゴールにたどり着けるのかを考えます。どんな山に登るときも、一気に頂上まで行くことはできません。ルートを確認、一步一步進んでいくことで、頂上が近づいてきます。外国語活動・外国語科の授業も同じです。一時間一時間の授業を積み重ねていく中で、ゴールとなる発話を子どもたちが言えるようにしていきたいと思っています。

そこで私が大切にしていることが「やり取り」の形式での練習です。誕生日を言えるようにするためには、まず月の名前が言えなくてはなりません。そのときに、ただ January, February と単純に単語を繰り返すだけでなく、子どもたちが月の名前を少し言えるようになってきたら、次のように練習していきます。

教師：When is your birthday? (絵カードを指す)

子どもたち：February.

教師：Oh, February!

When is your birthday? (次の絵カードを指す)

教師と子どもたちのやり取りの形式での練習を通して、When is your birthday? という表現や相手の発話を繰り返すことを自然に導入し、インプットすることができます。練習の中で、ゴールで必要となる表現を何度も聞かせます。上のやり取りをスムーズにできるようになったら、次は教師と子どもたちのパートを入れ替えます。

授業準備の際、私は、このようなやり取り形式の練習のレパートリーをたくさん考えていきます。そしてやり取りを通して、子どもたちの発話を引き出すようにしています。

### 4. ゴールを達成するために必要な教材を準備する

子どもたちとのやり取りの練習のレパートリーが決まったら、絵カードなどの教材を準備します。学校には既存の絵カードなどがある場合が多いと思いますが、それに合わせて子どもたちの発話を考えてしまうと、子どもたちの言いたいこと、教師が発話してほしいと願っていることとは、ずれてしまうことがあります。私は、まず子どもたちのゴールとなる発話を考え、それに合わせて教材を準備することが大切だと考えています。子どもたちの言いたい内容に合わせて、絵カードを準備することで、子どもたちから気持ちのこもった発話を引き出すことができるからです。少し

面倒ですが、このステップが重要です。

絵カードだけではなく、私はリアクションカードも準備します。相手の言ったことを繰り返してほしいときはこの顔のマーク、褒めるときはこの顔のマークと、リアクションカードを準備することで、指導する表現や語彙だけではなく、リアクションをするための表現も指導することができます。こうしたリアクションができるかどうかで、やり取りの内容も変わってきます。これも、ゴールとなる子どもたちの発話を具体的にイメージしているからこそできる準備です。

### 5. おわりに

英語専科教員として、4年生から6年生の子どもたちを指導しているとき、子どもたちは「英語でこんなことを言うのは無理だと最初は思ったけど、授業を受けているうちに、いつの間にか言えるようになっていた」とよく言っていました。私はまさにそのような授業をしたいと思っていたので、最大のほめ言葉でした。

最初にゴールとなる子どもたちの発話を具体的にイメージしておく、ゴールまでのステップを考えたり、教材を準備したりしている段階で、教師もだんだんゴールに近づ

いている手応えを感じることができます。手応えを感じながら準備をして授業に臨むと、余裕をもって子どもたちの様子や反応を見ることができます。これが、楽しい授業につながっていくのです。時には予想通りにいかず、苦戦することもあります。それも授業の楽しみであり醍醐味です。これからも、子どもたちといっしょに、楽しく、笑顔あふれる外国語活動・外国語科の授業をつくっていきたいと思います。

# ALTとのチームティーチングの準備

授業をALTとのチームティーチングで行う場合は、どのように打ち合わせをして、何を伝えるとよいのでしょうか。チームティーチングの授業準備のポイントをも、石川雄一郎先生にご紹介いただきます。



**石川雄一郎**(いしかわ・ゆういちろう)  
神奈川県海老名市立上星小学校の総括教諭。教務担当と高学年外国語専科を兼務しつつ、「小学校教員がする外国語教育と教員研修」「無理なくできる総括的評価」を研究している。令和2年度ELEC英語教育賞を受賞。

## 1. はじめに

新年度がスタートする4月は、新しく担当する学年や教科、学校運営組織がガラッと変わり、先生たちにとって忙しい時期だと思えます。また、「よーし、今年も頑張るぞ」と、新年1月1日と同じくらい、あるいはそれ以上に気持ちの切り替えができる時期でもあるでしょう。この気持ちの切り替えは先生だけでなく、子どもたちにとっても、

そしてともに働くALTにとっても大切なことではないでしょうか。本稿では、この大切な4月にJT（学級担任や専科教員などの日本人教員）がALTとのチームティーチングに向けて、何をどのように準備していくべきなのかと、日々の打ち合わせをどのように進めていくかについて、解説します。

## 2. 最初に伝えるべきこと

JTがALTと授業でチームティーチングをするために、特別高い英語力や会話力は必要ありません。しかし、外国語活動や外国語科の授業をどのように進めていくかの見通しがもてていること、つまり、T1（メインの教師）として授業を進めていける授業力は必要になります。なぜなら、ALT（Assistant Language Teacher）はその名前の通りアシスタントだからです。

新年度最初のALTとの打ち合わせでは、T1としてどのように授業を進めていくのか、授業の大まかな流れを伝えることが大切です。ALTに、どのような場面でどのような助けをしてほしいのか、どのようなことはしてほしくない

のかを伝えて相互理解することは、この先の1年間、ともに授業をしていく仲間として大切なことになります。

T1が学級担任の場合は、同じ学年の学級担任も全員参加した形で打ち合わせを設定してほしいと思います。新年度最初のALTとの打ち合わせに学年の学級担任全員が参加することで、学級担任同士の授業の大まかな流れをそろえられ、結果的にALTの負担軽減と授業の質の向上につながります。ただし、後述する授業自体の打ち合わせについては、学年の中から代表の1名だけで打ち合わせをし、その内容等を学年内で共有する形の方が効率的な場合が多いと思います。

## 3. 指導過程と活動・留意点の打ち合わせ

授業の大まかな流れは、例えば右のような単純な形で示し、それぞれの過程でALTにどのようなことをしてほしいのかを確認するとわかりやすいでしょう。

指導案を参照しながら打ち合わせを進めることも効果的だと思います。CROWN Jr. では、「Teacher's Manual ② 指導・評価編」の指導案例に、「指導者の活動と指導上

の留意点」が記載されているので、それらをもとにして具体的な指導方法や手順を確認してみてください。例えば、授業導入のあいさつの場面の指導者の活動「外国語の

- ① あいさつ
- ② 復習
- ③ めあての提示
- ④ 主活動につながる練習
- ⑤ 主活動
- ⑥ ふり返り

授業が始まる雰囲気が高まるようにあいさつをする」では、T1としてJTが何をし、それを受けてALTが何を

かを確認していくことで、JTとALTの授業に対する認識が少しずつ具体化されていきます。

#### 4. 単元の最終場面と評価の確認

1時間（45分）の授業の大まかな流れに加え、単元の最終場面と評価についても、新年度最初の打ち合わせで確認しておくことが大切です。

単元の学習を通して、子どもたちがどのような英語を話し、どのように授業者が評価するのかをALTに伝えることは、ALT自身の指導に対するモチベーションアップにつながります。

注意点としては、ALTの中には（あるいはJTの中にも）、

語彙や表現の習得にのみ積極的に力を注いでしまう先生がいっぱいいることです。小学校の外国語教育で大切にしている「外国語を使った実際のコミュニケーションを通じた学習」には、人間同士のよりよい関わり、つまり「楽しく仲よく」がとても大切になります。ALTと子どもたちとの橋渡し役はJTであることから、単元の指導を通して、ALTにどのように子どもたちに接してほしいかを伝えることも、JTの役割の1つといえるでしょう。

#### 5. 日々の打ち合わせでの確認事項

忙しい毎日の中で、日々の打ち合わせを成功させるためには、まずは日時の設定が大切です。特に、ALTが毎日出勤するわけではない学校では、この打ち合わせ日時の設定が最重要項目になると思います。おすすめの方法として、授業予定を週単位ではなく月単位、あるいはそれ以上の期間で作成し、打ち合わせ日時も授業予定表に書き込んでいく方法があります。右の例のように打ち合わせ日時を書いておくことで、学校全体の外国語活動や外国語科の授業進度やALTの出勤日が「見える化」され、そこから必要な打ち合わせ内容も推測できるようになります。作成には週単位の予定より時間がかかりますが、作成するだけの価値はありますので、ぜひ試してみてください。

例 外国語の授業予定表例

日付	曜日	ALT	学校行事	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	6時間目	放課後
:										
13日	月	Ryan	家庭訪問	5-1 ②	6-1 ①	6-3 ⑬	6-2 ⑬			
14日	火	Ryan	家庭訪問	3-1 ⑤				3-2 ⑤	3-3 ⑤	
15日	水	Lucy		5-2 ⑫	6-2 ⑭		6-1 ⑫	5-1 ⑬	6-3 ⑫	16:00 打ち合わせ 6年担任と 専科
		Ryan				5-3 ⑫	3-4 ⑥			
16日	木	Lucy			4-2 ⑦	4-1 ⑦	ALT 打ち合わせ	13:30 打ち合わせ 5年丘先生 教材準備	4-3 ⑦	
		Ryan		5-3 ⑬	5-2 ⑬	5-1 ⑭				
17日	金	—	新体力 テスト		4-4 ⑥					
:										

- ・クラス表示の右横の数字は、1年間の中の何時目を行っているかを表します。LessonやUnitの中の何時目を表す数字にしてもよいでしょう。
- ・打ち合わせ日時には、時間のほか、担当する先生の名前なども併記しておくことと忘れにくくなります。

#### 6. 授業自体の評価について

日々の打ち合わせにおいて、そのあとに行う授業について確認することはされていると思いますが、実施済みの授業の評価はどうでしょうか。「あの時、(ALT)先生には、〇〇って言ってほしかったんだ」「主活動は、もっと協力して説明していきたいです」など、めざす授業像に近づけるための話し合いも大切な打ち合わせ内容です。また、JT側からの要望だけでなく、ALT側が気になったことや感じていることを聞き取ることも大切です。

このように、打ち合わせを通してお互いの考え方や役割を話し合うことで同僚性（教師同士の協働関係）が高まり

ます。そんな教員たちを授業中に見る子どもたちが、「わたしも、先生たちみたいに仲よく英語で会話してみたいな」と感じていく、という理想的な流れになるように意識して授業準備をしていけたらよいと思います。

また、ALTとの打ち合わせで「あー、もっと英語が話せたらな」と感じた先生は、まさに「外国語を通じた実際のコミュニケーション」をした結果、言語習得への意欲が上がったということではないでしょうか。子どもたちにも同じように感じてもらえるよう、これからもALTと協力して授業の準備を続けていきましょう。

# Tips for Activities!

やってみよう  
英語活動

## 「言えた!」が増える外国語授業 —言語活動を支える3つの活動—

同じ表現を繰り返し使うことで、表現をしっかりと定着させ、子どもたちが安心して英語で伝え合えるようにする活動を紹介します。

「これ、英語でどう言うん？」子どもたちの質問を聞いていると、日本語の文をそのまま英語にしようとして止まっている場面に出会います。言葉がわからないのではなく、「どう言えばよいかわからない」状態です。ここに、これからの英語学習の課題があると感じています。

私は授業の中で、単語の定着も大切にしながら、「パターン」を繰り返し使いながら、安心して伝え合える言語活動を大切にしています。活動の中で自然に言い換えながら話せるよう、次の3つを柱に授業を行っています。

### ①「型」をつくり、繰り返す活動

人物紹介の単元では、次の表現をまとめて扱います。

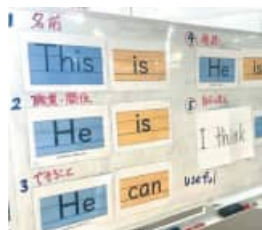
This is ....

He / She is ....(職業・関係など)

He / She can ....

He / She is .... (great など)

一文ずつ覚えるのではなく、上



記の「型」で人物を替えながら何度も紹介する活動を行います。同じ「型」を使って言葉を替えながら繰り返すことで、子どもたちは考え込まずに話し始められるようになります。新しい表現を増やすことよりも、「言える安心感」を先につくることをねらいとしています。

### ② スモールトークで往復させる活動

毎時間のスモールトークでは、一問一答で終わらせず、聞き返しや反応を入れて会話を続けます。

A: What sports do you like?

B: I like soccer.

A: Why?

B: Because it is fun.

Why? と尋ねるだけで、やり取りが広がります。また、How about you? や Really? を繰り返し使うことで、子ども同士の会話が自然に続くようになります。

量を増やすのではなく、同じ表現を何度も使うことで、会話のやり取りが少しずつ長くなっていきます。

### ③ 読みからつなげる話す活動

読む活動では、発表モデルの文章（ここが大事）を扱います。音声を十分に聞いてから、音読し、今度は自分の内容に替えて話してみます。そのあと、必要に応じて、自分で順番を変えたり、文を追加したりして発表します。「聞く → 読む → まねる → 自分が伝えたいこと」という流れにすることで、意味理解だけで終わらず、実際に使える言葉として残ります。「日本語を英語にしてから話す」のではなく、「言えるから話す」状態を目指しています。

これらの活動を続けると、「英語でどう言うん？」と尋ねていた子どもが、「これで言えるかな」と試しながら話すようになります。

近年は翻訳機能を使えば英文をつくることができます。しかし、小学校段階では、まず自分の知っている表現で伝えてみる経験が大切だと考えています。特別な教材がなくても、同じ表現を繰り返し使う活動を中心にするので、どの学校でも取り入れることができます。これからも、子どもが安心して話し、伝え合える言語活動を大切にしていきたいと思います。

## 子どもが使う! Classroom English

### ●聞き返し

One more time, please. / Slowly, please.

### ●会話をつなぐ

How about you? / Really? / Why?

### ●プラスワン（補足して言う）

Because .... / And .... / But ....



手嶋浩之(てしま・ひろゆき)

小学校での学級担任や指導主事の経験を経て、現在は小学校英語専科として外国語の授業づくりに携わる。言語活動を中心に、子どもがどう言えばよいかを考えながら伝え合う授業づくりに取り組んでいる。スモールトークを通して、やり取りが続く教室を目指している。

## Q&A

### 効果的な語彙指導

HPでは、ほかにもさまざまな質問やお悩みにお答えしています。ぜひご覧ください。



単語の練習をたくさん行っても、児童がやり取りで単語を使えるようになりません。

「教師のあとに続いて言えたのに、やり取りになると言えない」という状況が起こる原因は、練習量や子どもたちの意欲の問題ではありません。「語彙」は、意味と発音を覚えればよいという単純なものではなく、学習段階に適さない発音練習やアウトプットの強制は、語彙の習得を遅らせると考えられています (Barcroft, 2012)。語彙習得のためには、意味理解を中心に、新出語彙をさまざまなコンテキストで繰り返しインプットさせることがスタート地点です。例えば、次のように進めます。

#### ① 語彙インプット

教科書の音声教材に出てくる語彙を中心にインプットをします。視覚教材を使って、新出語彙を入れながら「対話」をします。“Where is Jun? Is he in Nikko?” “Oh, he is on the SCHOOL TRIP!” のように、児童が日本語を介さなくても Nikko から school trip を連想できることを目指します。また、“You went to Nikko on SCHOOL TRIP, right?” と児童自身の経験とつなげると、繰り返し単語に触れさせることができます。ここで発音練習はさせません。

#### ② 教科書リスニング

教科書の音声教材を使って、一連の流れの中で単語を聞かせます。最低でも 2 回聞かせます。



単語だけでもできるやり取りで、十分にインプットしましょう。

#### ③ スモールトーク

「語彙＋言語材料」だけに絞った短いインプットをします。例えば、“We had the SCHOOL TRIP in ...?” と児童との対話の中で、school trip と “We had the ...” をセットで使用することで、児童が文章のどこに school trip が出現するのかわかりながら、自然な会話の中で表現に慣れ親しむことができます。そのあとに、単語の発音練習を始めます。

#### ④ 発音練習

十分に音声で慣れ親しんでいることを確認して、リピート練習をします。

このように、「十分慣れ親しんだ単語を発音練習で強化する」ことで、記憶の保持も上がり、無理なく発話へとつなげることができます。

#### 〈参考文献〉

Barcroft, J. (2012). Input-Based Incremental Vocabulary Instruction. Alexandria, VA: TESOL International Association.

#### 増淵真紀子(ますぶち まきこ)

明星大学非常勤講師。TESOL 修士。元小学校外国語専科講師。東京大学教育学研究科博士課程にて、第二言語習得に基づいた Young learners のための Focus on Form 指導法の効果について研究している。J-SHINE 小学校英語上級指導者の資格を所有し、2021 年より Instagram、YouTube でまき先生として小学校英語の授業アイデアや教材、教授法をシェアしている。



### 世界の風景

#### タキーレ島 (ペルー)



南米ペルーとボリビアにまたがる湖「チチカカ湖」。琵琶湖の約 12 倍という広さにも驚きますが、何より印象的なのは、その湖が標高約 3,800m、まるで富士山の頂に広がっているかのような場所にあることです。

今回の表紙の舞台は、そんなチチカカ湖のペルー側に浮かぶタキーレ島。約 1,600 人のケチュア族が独自の共同体を築きながら暮らしています。港町プーノからボートでおよそ 3 時間。島に到着すると、丘の上の広場へ続く長い階段が待っていました。標高は場所によっては 4,000m に達します。高山病を避けるため、呼吸を整えながらゆっくりと登ります。

その途中で出会ったのが、写真の少年でした。鮮やかなニット帽をかぶり、宿題に向かう姿。下校途中でしょうか。思わず目を向けてしまうニット帽。タキーレ島は高品質な織物で名高く、世界無形文化遺産に登録されています。男性も編み物を受け継ぐ伝統があり、帽子の色やかぶり方には身分を示す意味があるのだそうです。

少年の背後には、春の光をたたえた湖が広がり、どこからともなく、島民の歌と楽器の音が心地よく耳に届いていました。

#### ERIKO(えりこ)

モデル・定住旅行家。国内外の家庭に滞在し、現地の暮らしを発信。現地と日本の架け橋になる活動も行う。とっとりふるさと大使。著書多数。WEB: <https://erikok1116.official.ec/>



令和6年度版

# CROWN Jr. 5 6

## 学習者用デジタル教材のご案内



ポートフォリオ機能を搭載！

Let's Read & Write やふりかえりなどで書き留めたことを一覧できます。

ゲーム感覚で単語学習&豊富な音声でしっかり学習

パノラマとMy Dictionaryには、文字や音声とイラストをマッチングするゲームを用意しています。  
チャンツ音声のカラオケ再生機能などの豊富な音声コンテンツで、児童自らの学びを支えます。

### 学習者用デジタル教材

書名	価格
CROWN Jr. 5	1,650 円 (税込)
CROWN Jr. 6	1,650 円 (税込)

※ My Dictionary を含みます (いずれかの学年の初回ご採用時に付属)。My Dictionary の分売はできません。  
※ デジタル教科書・教材一体型の商品です。  
※ 株式会社 Lentrance の提供する Lentrance Reader でのご利用となります。対応環境は、Lentrance Reader に準じます。  
※ 児童 1 名のご利用につき、1 ライセンスが必要です。当該の児童が在学の期間有効です。  
※ 上記は学校採用専売の商品です。一般向けに販売する商品とは異なります。

AI がスピーキングを自動採点!! 英語の学びを総合的に支援!!



令和6年度

## CROWN Jr. 5 6 準拠

おもな機能 ▶▶▶▶▶

単語



「正しい発音を聞く・真似て発音する・書く」のサイクルを通して、語彙を定着させる学習ができます。

会話



あいさつや質問への返答など、さまざまな場面に合わせた会話表現を学ぶことができます。

英検対策



画面に面接官が登場し、実際の面接形式に沿って、練習に取り組むことができます。

サービス提供:  株式会社サインウェーブ <https://www.sinowave.co.jp/>

価格、サービスの詳細は下記の弊社連絡先、またはお近くの弊社担当者までお問い合わせください。

### ご案内

#### 文部科学省「令和8年度学習者用デジタル教科書の導入」について

提供の詳細につきましては、弊社ホームページにてご案内しております。  
学習者用デジタル教科書の体験版もご覧いただけます。  
<https://tb.sanseido-publ.co.jp/digitaltext/support/>



LINE

三省堂 小・中学校 教科書  
LINE 公式アカウント  
はじめました!

授業のお役立ち情報を  
定期的に配信中!



三省堂 〒102-8371 東京都千代田区麹町5-7-2

三省堂 教科書・教材サイト <https://tb.sanseido.co.jp/>

※この冊子は、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」に則って配布しております。